

『日本石器時代提要』のこと

中谷宇吉郎

青空文庫

弟治宇二郎じゅうじろうが書いた本というのは、表題の『日本石器時代提要』であつて、菊判きくばん三百ページくらいの堂々たる体裁であつた。評判も大分良かったらしく、『朝日新聞』の書評でも「年齢わずか三十歳の著者が」と、大いに褒めてあつた。しかし本当は、当時二十七歳くらいだったので、ひどく早熟な方であつた。

語学には、妙な才能をもっていて、来た時は仏蘭西語フランスはボン・ジュールくらいしか知らなかつたのに、二カ月もしたら、もうコレジ・ド・フランスで、三十分の講演をして来たなどといつて、澄ましていた。

日本を出る前に、注口土器ちゆうこうどきの形と紋様もんようの分類をして、その

型式を地図の上に描き現わして、文化（カルチュア）の中心を求めるといふ研究をした。その結果を英文で書いて、方々に送つておいたそうである。来て間もない頃、コレジ・ド・フランスで社会学のモリス教授の講義を冷やかしていたら「文化中心を求めなかや中谷の図式方法」というのが出て来て、びっくりしたそうである。講義がすんでから「それは私です」と申し出たら、モリス教授もたいへん喜んで、それから学会などにも始終顔が出せるようになった。

こういう具合に、弟の在仏生活は、大分楽しく、また仕事の方でも能率を大いにあげた。しかし勉強が過ぎて、胸を悪くした。スイスの療養所で大分静養もしたが、思わしくなく、帰って九州

の由布院ゆふいんで闘病生活四年、遂に亡くなった。

それから五年ばかり経たつて、日華事変にっかの最中、京都の出版社が、京大の梅原末治教授うめはらすえじのところへ、考古学の本を一冊書いてもらいたいと頼みに行つたことがある。そしたら梅原教授は「考古学の本では、以前に出た中谷君の『提要』が非常に良い本であつたが、今は絶版になつている。あれを補足して出した方がよい。私こぼやが校訂してあげる」と言われたそうである。そして同教室の小林行雄しゆきお、岡崎敬おかざきたかし、両君の熱心な助力を得て、初版刊行後に得られた新資料及び斯学しかくの進歩を採り入れて『校訂日本石器時代提要』は、菊判五百五十ページに及ぶ大著となつて、再び世に出た。

原著の姿をそのままに残して、それに新しい資料を加えて、増

補校訂をするということとは、非常に労が多くて、しかも世間的には、功の現われない仕事である。普通は門下生が恩師の遺著について行うことが、稀^まれにあるという程度の話である。

梅原教授のような当代一流の学者が、その門下生でもない、他の大学の年若い一助手の遺著に対して、こういう厚意を示されたことは、空前のことであり、また絶後になるかもしれない。早くは死んだが、弟は仕合せな男であった。

(昭和三十年七月十九日)

青空文庫情報

底本：「中谷宇吉郎隨筆集」岩波文庫、岩波書店

1988（昭和63）年9月16日第1刷発行

2011（平成23）年1月6日第26刷発行

底本の親本：「百日物語」文藝春秋新社

1956（昭和31）年

初出：「西日本新聞」

1955（昭和30）年7月19日

入力：門田裕志

校正：川山隆

2013年1月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

『日本石器時代提要』のこと

中谷宇吉郎

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>